

新世紀経営の心——16人の先達

日本経営倫理学会 理念哲学研究部会 編

英治出版

2011.2.28
¥2,800

目次

- 推薦のごとは——日本経営倫理学会会長 水谷雅一 3
- はじめに——日本経営倫理学会・理念哲学研究部会 部長 福留民夫 5

1 東洋の心と道 《義と利》の倫理思想に学ぶ 14

(1) 論 語——利を見ては義を思ふ 16

(2) 大學——財を生ずるに大道あり 17

(3) 孟 子——義を後にして利を先にするを為せば、奪わすんはあかす 19

2 日本の心と道 《義と利》《自利利他》の倫理思想に学ぶ 20

(1) 日本人の「心と道」は何か——道と利と情と謝の融合 20

(2) 聖徳太子——信は是れ義の本なり 22

(3) 道 元——利行は一法なり、崇く自他を利するなり 23

(4) 二宮尊徳——勤労・分度・推譲の実践で、人づくり、村づくり 27

(5) 佐藤 斎——真の功名は、道徳便ち是なり。真の利害は、義理便ち是なり 28

(6) 山田方谷——義を明らかにして利を計らず 29

(7) 三島中洲——義は利の始め、利は義の終わり 30

3 義と利のジレンマをいかに解くか 倫理判断の基準について考える 37

4 日本を再起させる心と道《の経営》 43

(1) 新世紀の企業に求められる義と利、《自利利他》の理念 43

(2) 社徳ある企業を目指して 45

第1部

《心の経営》の源流に学ぶ

日本を再起させるための《心と道》の経営——福留民夫 12

第2部

《心の経営》を实践した16人の先達

江戶期 幕末から昭和 第二次大戦後

1 角倉了以と角倉素庵 世界に先駆け、経済倫理を实践

2 鈴木正三と石田梅岩 日本人の職業・商業倫理思想の源流

3 細井平洲と上杉鷹山 活潑精神の教導と経営改革

4 福澤諭吉 知られざる其字の実践と屋敷家精神の発揮

5 渡辺栄一 わが国近代経営哲学 日本型スタンダードの祖

6 伊庭貞剛 激動の明治期 近代化経営への礎を築く

7 益田孝 土産商才 日本経済の近代化を進めた巨人

8 岩崎小弥太 品格あるビジネスによる国家社会への奉仕

9 原安三郎 良心の結合で、事業を通じて国家社会に奉仕

10 田代茂樹 国際的視野で「社会奉仕」を实践

11 松下幸之助 本道哲学を旗印に、聖なる事業へ邁進

12 木川田一隆 日本学理念——個と全体の調和を求めて

13 本田宗一郎 「無私」の精神で夢を實現した独創的経営者

田中宏司 246

武藤信夫・佐藤 50

核原重之 66

山本 毅・川津政義 82

具井 隆雄 98

野口 幸洋 116

具井 隆雄 134

野邊 郎 150

裕 宗 実 168

福留民夫 184

向野 達見 200

裕 宗 実 216

武藤 信 夫 232

■執筆者紹介 262

研究者に倫理研修義務化

科学技術振興機構 論文不正を防止

A2013.7.28(1)

国の研究資金を配分する機関の一つ、文部科学省系の独立行政法人科学技術振興機構（JST）は、配分先の研究者に不正防止などの倫理研修を義務づける。論文の改ざん・捏造などの不正が相次いで科学への信頼が揺らいでおり、「成長戦略の妨げにもなりかねない」との危機感が背景。今年度から新たに採択される研究に参加する研究者全員

が対象で、今年度で数千人になる見込みだ。

米大学で広く使われている教材をもとに日本の法律、文化、文科省などの指針を盛り込んだ日本版を使い、研究データの正しい扱い方改ざん、捏造、盗用など過去の事例と不正防止などをパソコンで学ぶ。1項目を30分程度学んだ後、テストで理解度を確認する。公的研究資金の取り扱い

など7項目を必修、利益相反など3項目を任意にした。受けていない場合には「研究費の執行を停止することがある」としている。

JSTは年に約4千億円ある国の競争的研究資金の約4分の1を配分している。山中伸弥・京都大教授のiPS細胞（人工多能性幹細胞）研究など生命科学、再生可能エネルギー、情報通信技術など戦略的に

■最近発覚した主な研究不正	
2012年 6月	東邦大元准教授の論文約170本に捏造
10月	東京大特任研究員が虚偽発表、懲戒解雇に
13年 7月	京都府立医大元教授の高血圧薬臨床研究でデータ操作
7月	防衛医大講師の論文3本に計7件の改ざん・捏造
7月	東京大元教授グループの論文43本に改ざん・捏造など

重要な研究が対象で、論文捏造などの疑いを指摘された加藤茂明・元東大教授のグループもJSTの研究費を受けていた。

米国立保健研究所などが研究倫理の研修を義務づけるなど欧米では対策が進んでおり、この動きは広がりそうだ。（編集委員・浅井文和）

独立行政法人 科学技術振興機構 Japan Science and Technology Agency

JSTは、国民の幸福で豊かな生活の実現に向けて、新しい価値の創造に貢献し、国の未来を拓く科学技術の振興を進めます。

- ・ ミッション
- ・ 第4期科学技術基本計画の中核的実施機関として科学技術イノベーションの創出に貢献
- ・ ビジョン
- ・ ① 創造的な研究開発による科学技術イノベーションの実現
- ・ ② ネットワーク型研究経営による成果の最大化
- ・ ③ 科学技術イノベーションの加速に向けた我が国の科学技術基盤の整備



シンボルマークについて

JSTの文字を囲む楕円とその上の赤い丸は、太陽系と地球のようなマクロの視点と、電子と原子核のようなミクロの視点をイメージしています。その中心にJSTがあり、ミクロからマクロまで、あらゆる視点で科学技術を振興するJSTの取り組みをシンボライズしています。また、赤い丸には同時に、旭日のごとく、天にのぼるように勢い盛んに未来に向かって成長を続けるJSTの姿をイメージしています。